

科目名	日本語教育方法論特講	担当者	シマダ 島田 めぐみ	期間	通年	単位数	4
-----	------------	-----	---------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>日本語教育を考える際、教育の場（日本国内、国外）、機関（初等教育、中等教育、高等教育）は多種多様であり、対象者も年少者、学生、ビジネス関係者、日本の生活者など多様化している。本講義では、日本語教育の状況、言語学、異文化コミュニケーション、指導法、評価法、教授法、社会、歴史、教材などの観点から多角的に日本語教育を概観し、個々の環境に適した方法を考察する。以上の目的を達成することにより、世界の日本語教育を適切に考察する能力、日本語教育に関する問題解決能力、挑戦力、指導力、自己分析能力の向上を目指す。</p>		
到達目標	<p>【一般目標（GIO）】 日本語教育について広く理解し、個々の教育現場に適した日本語教育の方法を多角的に考察する能力を身につけることを目標とする。</p> <p>【行動目標（SBOs）】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史や社会環境と日本語教育を関連づけることができる。 ・国内外の日本語教育の多様性を説明することができる。 ・各種言語評価の理論を理解した上で、適切に活用することができる。 		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ manaba folio 上で、レポートのピア・レスポンス等、受講者同士の協働学習を行う。 ・ manaba folio を通じて教員とインタラクティブな個別指導を受ける。 ・ manaba folio を利用し、ポートフォリオに基づき自身の学修を振り返る。 ・ 図書館、インターネットで関連論文の検索を行う。 <p>【学修方略（LS）と学修時間】</p> <p>（自習）教材と関連文献を熟読する。15 時間 （自主研究）課題に関し、事例研究を実施する。10 時間 （レポート作成）レポートを執筆する。10 時間 （ディベート）他の受講者のレポートを読み、テーマに関し理解を深める。5 時間 （ディベート）他の受講者のレポートについて感想・意見を述べる。5 時間 *学修時間は課題レポート 1 本あたりの目安時間</p>		
スケジュール	<p><前期></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ レポート課題 1 締切：6 月 15 日（初稿）（最終稿提出期限：学事歴で定められた日） ・ レポート課題 2 締切：8 月 15 日（初稿）（最終稿提出期限：学事歴で定められた日） <p><後期></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ レポート課題 1 締切：10 月 15 日（初稿）（最終稿提出期限：学事歴で定められた日） ・ レポート課題 2 締切：12 月 15 日（初稿）（最終稿提出期限：学事歴で定められた日） 		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	80%	形式（構成、引用のし方、適切な表現）、内容（論旨の明快さ、独創性、課題把握の適切性） *後期のレポート課題 2 は最終試験として初稿で評価する。 *その他のレポートは、最終稿にて評価する。
	観察記録	20%	ピア・レスポンスへの参加度、レポート添削への対応等
履修者への要望	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師によるフィードバック、必要に応じピア・レスポンスをもとにレポートを完成させることが求められる。 ・ 無断引用、不適切な引用がなされた場合は、不正行為とみなされ、失格となる場合がある。 ・ 各レポート提出時に、レポート執筆チェックリストをあわせて提出すること。チェックリストは、学期開始後、manaba 上に掲載する。 		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： 遠藤織枝 教材名： 『新・日本語教育を学ぶ-なぜ、なにを、どう教えるか-』（三修社，2020） ISBN：978-4-384-05973-1 2,400円+税 Kindle版：2,090円（税込）
	日本語教育の状況，歴史，言語政策，第二言語習得，教授内容，評価，社会，カリキュラムなどの観点から多角的に日本語教育を概観している本である。世界各地の日本語教育現場のレポートも掲載されており，日本語教育の多様性が理解できる。Kindle版は，下記URLから購入できる。 https://www.sanshusha.co.jp/np/isbn/9784384059731/
参考図書	国際交流基金『海外の日本語教育の現状 2018年度日本語教育機関調査』Web版 (https://www.jpfi.go.jp/j/project/japanese/survey/result/survey18.html)
履修上のポイント	基本教材1は日本語教育の基礎的内容なので，いずれの章も十分理解してほしい。特に，歴史や社会情勢との関係を理解し，日本語教育のあり方を考えること。また，それらを理解した上で，地域・対象者を具体的に想定し，コースデザインを検討すること。 ピア・レスポンスの活動を通して，他者の視点をも理解しながら，日本語教育に関する理解を深めること。
レポート課題1	第1章，第2章，第3章を読み，歴史や社会情勢がどのように日本語教育に影響を及ぼしていたかを考察し，さらにこれからの日本語教育のあり方を論じる。（4,000字～5,000字） 留意点： 歴史的事実と日本語教育の関係を把握して，現在における学習者のニーズの変化を理解して，考察すること。「引用」と「自己の考察」部分を明確に分けて記述すること。
レポート課題2	第2章，第3章，第7章から第10章を中心に読んだ上で，地域・対象者を1つ設定して，どのような日本語教育を実践するか，コースデザインを検討する。国際交流基金の海外の日本語教育の現状2018年度調査の結果をニーズ把握の参考にする。地域は国内外を問わない。（3,000字～4,000字） 留意点： シラバス，教材，具体的な活動（1例），評価の方法を含める。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 文化庁文化審議会国語分科会 教材名： 日本語教育の参照枠 https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/kokugo/hokoku/pdf/93476801_01.pdf 著者名： 遠藤織枝 教材名： 『新・日本語教育を学ぶ-なぜ、なにを、どう教えるか-』（三修社，2020）8章 ISBN：978-4-384-05973-1 2,400円+税 Kindle版：2,090円（税込）
	2021年に公開された「日本語教育の参照枠」は，CEFR（Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment）を参考に策定された，学習，教授，評価に関わる包括的な参照枠である。日本語能力の評価については，特に章を設け，評価に関する考え方，各種評価の説明，参照枠との対応づけなどが取り上げられている。 基本教材1でもある『新・日本語教育を学ぶ-なぜ、なにを、どう教えるか-』の8章「評価」では評価・テストについての基本的な理論と各種評価が取り上げられている。
参考図書	Council of Europe. (2020). <i>Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment - Companion Volume</i> . https://rm.coe.int/common-european-framework-of-reference-for-languages-learning-teaching/16809ea0d4
履修上のポイント	CEFRは，「Learning, teaching, assessment」とあるように，評価の枠組みでもあり，「日本語教育の参照枠」もそれに倣っている。多様な学習者の能力評価は重要であり，様々な評価の方法があること，評価の理念を学んでほしい。その上で，多様な評価・テストの実践例を自主研究，ピア・レスポンスを通して，理解を深めること。
レポート課題1	基本教材2「日本語教育の参照枠」で取り上げられている各種評価（pp.79-89）を理解した上で，これら評価に関する論文1編あるいは2編の要約をした上で，その評価に関し自分の意見を論じる。基本教材1（第8章）も参考にすること。（3,000字～4,000字） 留意点： 要約は，論文を十分理解し，「自分の言葉」で書くこと。
レポート課題2	基本教材2と基本教材1（第8章）を試験（テスト）について理解した上で，試験（テスト）に関する論文1編あるいは2編の要約をした上で，そのテストに関し自分の意見を論じる。（3,000字～4,000字） 留意点： 要約は，論文を十分理解し，「自分の言葉」で書くこと。

基本教材 1

第 1 回	教材の学修：基本教材 1 の第 1 章
第 2 回	教材の学修：基本教材 1 の第 2 章
第 3 回	教材の学修：基本教材 1 の第 3 章
第 4 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 5 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 7 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 8 回	教材の学修：基本教材 1 の第 4 章～第 6 章
第 9 回	教材の学修：基本教材 1 の第 7 章～第 8 章
第 10 回	教材の学修：基本教材 1 の第 9 章～第 10 章
第 11 回	コースデザインの検討
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成

基本教材 2

第 1 回	教材の学修：基本教材 2 「日本語教育の参照枠」のⅠ
第 2 回	教材の学修：基本教材 2 「日本語教育の参照枠」のⅡ
第 3 回	教材の学修：基本教材 2 「日本語教育の参照枠」のⅢ
第 4 回	関係論文の講読
第 5 回	レポート課題 1：初稿の作成
第 6 回	レポート課題 1：添削指導に対する修正稿の作成
第 7 回	レポート課題 1：ピア・レスポンス
第 8 回	レポート課題 1：最終稿の作成
第 9 回	教材の学修：基本教材 2 「日本語教育の参照枠」の参考資料
第 10 回	教材の学修：基本教材 2 『新・日本語教育を学ぶ-なぜ、なにを、どう教えるか-』の第 8 章
第 11 回	関係論文の講読
第 12 回	レポート課題 2：初稿の作成
第 13 回	レポート課題 2：添削指導に対する修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2：ピア・レスポンス
第 15 回	レポート課題 2：最終稿の作成